

# 家族のもとに生まれ 2016/05/09

高2 白坂 梨里子

最近私は、反抗期だ。家族と毎日のように口げんかしている。その度に、「こんな悪い子に育つのだったら、私を産まなければよかったのに」と正直思ってしまう。しかし、その考えこそが一番自分勝手に浅はか、親不孝であることに気付かされた。

保健の授業で見たビデオの中で、おなかの子が病気を持っているとは知りながらも、その子を出産したという女性が紹介されていた。彼女は「産むというのは、家族皆がその子の存在を認めるということ」と言っていた。

私は今も昔も健康だが、母も私を産んだ時、同じことを思ったかもしれない。今では家族に当たり散らして怒らせてばかりいる私も、家族に認められ、迎え入れられ、そしてここに存在している。

もちろん、この反抗期のわがままな態度こそ直さなければならぬが、それでも私は、今の家族のもとに生まれたことを恵みだと思う。

(伊佐市)